

知りたいこと

望むこと

8人の議員が一般質問

児童手当改正後の手続きの 状況は

課長——対象者は早期に手続きを



花田すまこ 議員

質問 児童手当制度は、児童を養育する家庭の生活の安定に寄与し、児童の健全な育成および資質の向上を目的としています。

本年4月1日には子育て支援対策の一環として、この制度が拡充され、支給対象年齢が現在の義務教育就学前から小学校3年終了までとなっています。



小学校3年生まで対象に

保健課長 今回414人が新たに対象となり、全

当町には、対象者がどれくらいいて、改正後に受給資格のある方が認定請求の手続きをどれくらいされたか聞きたい。そしてすべての対象者が受給できるようにしていただきたい。

体で838人から1252人となりました。
また、手続きについては、対象者宛にお知らせと認定請求書を送付し、町内全世帯にチラシも配布するなどして周知を図り、8月末までに対象児童の保護者322人のうち285人が手続きを終えている状況です。9月中に手続きをすると特例的に4月1日に遡り支給されることとなっているので、残り37人についても、早急に手続きしてもらうよう電話、通知をし、土曜日、日曜日でも対応できるよう考えています。

旧宮本学園の今後は

町長——今後も買取を求めていく



仲野 守 議員

質問 土地開発公社の所有地の残りを平成19年までに旧宮本学園が買い取ることになっているが可能性はない。むしろ、今まで売った分を返してもらって、残地と合わせて有効活用を図った方がいいのではないか。

町長 旧宮本学園を引き継いだ学校法人国際電子整備学園には現在も約束を継続する意思があり、今後も買取りを強く求め

ていくが、できなければ、合併後の新公社に引き継ぐしかない。

都市計画道路と用途地域の変更は

質問 鞍手町の将来を考えたとき、都市計画道路の整備に合わせた用途地域の変更を先にすべきではないか。

町長 用途地域の見直しはいずれ考えなくてはならないが、東西線、南北線、公共下水道やインターを生かした都市基盤整備などをまず先にやって、それをてこに民間の活力を引き出していきたい。

浮州池からの取水を変更できないか

質問 合併後、上水道に關しては料金の格差はいずれなくなる。合併特例債を使って浮州池での上水の取水を変更してもらいたい。

町長 浄水場の前処理ろ過装置の実験プラントを実施した。結果がよかったので実施したい。9、10億円かかるが、他のコスト軽減にもなり、おいしい水が供給できると思う。取水場の変更は合併協議会で検討中です。



オートモビルカレッジ福岡（旧宮本学園）

新市建設計画の優先順位は

町長——全体の事業費をみて



福本 博文 議員

質問 道路交通網の整備・強化、JRの各駅周辺の整備など合併特例債を活用して新市の計画案を実行する中で、実際にきる優先順位があるのか。

町長 合併新市計画等を策定しながら柱立てしているが、現段階でそれぞれの事業費がどの程度になるか定かではなく、全体のボリュームもつかめていません。

財政がパンクという話も聞くが、財源確保については、国・県の補助金を第一に考えて、不足については特例債を活用していくのが手順だと考えています。



鞍手駅周辺

新生「くらて」の 均衡のとれた発展 を

質問 遠賀川架橋、インターチェンジ、植木のメカトロビジネスタウン構想などの指針により小牧、中山地区の発展は考えられるが、古月、西川地区の発展をどのように考えているのか。

町長 合併すればどの地域でも、東西南北というものは位置付けの中に出てくるのは避けて通れません。その中でお互いに研究し努力を重ねながら活性化に取り組んでいくことが必要だと思います。

直方市、小竹町も活性化計画を持っているので、1市2町が一緒になって故郷を作っていくのです。古月、西川地区の活性化については、何をにおいても交通アクセスの整備が第一条件、それに公共下水道の促進、駅前周辺開発を活かしながらやっていきます。

また、合併すれば地域

審議会を発足して、それぞれの地域の希望、意見などを出していくことが大切です。活性化は、企業誘致だけではありません。農業も商業もあるので一体的な取り組みの中から考えてやるべきではないかと考えます。

土地開発公社の塩 漬け土地は

質問 鞍手町が22億円、直方市が20億円、小竹町が1・5億円、合わせて43億1000万円の土地を所有するようになるが、当町は合併までに処分など何か考えているのか。

町長 我々も不自然さは持っており、どうすれば良いのか協議の過程の中で研究をした結果、弁護士の意向にも従いながら1市2町の法定協議会の中で、この協議を持ち込みながら新市に向けての継続事項になると思います。

合併のメリット実現の目処 と財源は

町長—まだ決まっていない



岡崎 邦博 議員

町長 地元協議の見通しは大きな課題が残っているもので、なかなかすぐに見通しは難しい状況です。

また、事業規模と財源については、まだ決まっていないので答えられる段階にはありません。

イオンの進出は、現在地権者と交渉が続けられており、結論は出ていません。

質問 町長は、合併のメリットをJR鞍手駅周辺の開発、直方市の植木メカトロビジネスタウン計画、インターの新設や遠賀川架橋の建設、企業誘致だと言われている。

そこで、合併のメリットとしてあげている駅前開発の地元協議の見通しと、事業規模・財源は。また、イオン進出計画のその後は。

質問 新市建設計画を実施するための財源の裏付けはできているのか。

町長 財源については、できる限り補助金を利用し、不足分について、特例債を活用していきたいと考えています。

実施の目処と財源の裏付けについては、これから調査していく段階ですから、もう少し状況を見たと報告します。

本町、中本町、上 新橋地区の浸水対策は

質問 中山本村地区にインターが建設される予定だが、請願が一部採択された時点より、六田川周辺の環境は著しく変化することが予想される。

そこで、3地区の浸水対策は国、県、町のどこが中心に取り組むのか。

また、町として今後具体的にどのような施策を考えているのか。

町長 浸水対策は、町が中心となってやらざるを

得ないわけですから、これからインターの調査、設計に入りますが、協議の過程で浸水対策、水害対策の話を含めて進めていきます。

なお、この問題については、議会の審査結果も出ていますので、それを尊重してやるべきだと考えています。



平成11年の浸水

合併後の福祉・教育の後退を危惧

町長―格差を高い水準に努力



竹内 利一議員

町長 少子高齢化社会となり、その対応はそれぞれの自治体で工夫と努力をしてきましたので、1市2町に格差があることは承知しています。福祉政策の格差を高い水準に合わせていく努力が必要だと思っています。

福祉課長

保育料の関係はすでに協議会で承認されていますが、盲導犬使用助成事業、福祉タクシー料金助成事業については、今後検討されます。

住民サービスの向上

と負担の公平の原則に沿って、サービスが低下しないで負担が高くならないよう最大限努力し、合併協議会に臨んでいきます。

質問 合併の本来の姿は、サービス水準は高く、負担は低く調整することが原則です。しかし、法定協議会の中で、保育料の試算が出ていましたが、かなり高いものになっていました。

また、当町独自の盲導犬使用助成事業、福祉タクシー料金助成事業もまわりの市町村に比べると高い水準にある。新市になってサービスの後退が考えられるが、町長の考えは。

補助教員はどうなるのか

質問 仲良し学級の補助教員は町独自で一般財源から支出されているが、合併後はどのような扱いになるのか。

町長

この事業が新市になっても存続できるようにしていきたいと考えています。教育については後退が生じないように努力します。



古月保育所の子どもたち

西川をシンボリック的存在に

町長―町からも要望します



毛利 喬議員

たらどうか。

建設課長

本年度に管理棟、バンガロー8棟を建設、平成17年度に研修棟、草そり、薬草園、周辺整備を行い完了する予定です。

質問

かんがい揚排水施設の資金を利用して西川の浚渫工事を終了させ、町合併のシンボリックな存在にしたらどうか。

質問

環境美化条例を活かし、環境美化推進委員を選任してはどうか。また、町道や公共施設

町長

西川は、国・県の管理河川ですが、責任を持ってやっていただいています。

町としても極力促進を要望していきます。

質問

大谷自然公園を合併の目玉として完成させ



西川の浚渫

に雑草が目立つが、計画を立てて整備すべきでは。

町長

委員の選任については、団体との協議もあるが、早急に相談して環境美化に取り組んでいく必要があると思います。

また、道路、公共施設の草刈りは、予算規模が相当に増えており、財政的にも厳しくなっています。交差点付近など事故がおきないような最小限の対応をやらざるを得ないと思います。

中央公民館運営の組織化とその充実を

質問

中央公民館に合併前から専任の館長を置いて組織化し、充実した公民館にして活動したらどうか。

教育長

中央公民館については、合併後は事務機能の増大や事業の拡大も予想されます。組織の見直しや専任の館長の配置は、今後、十分検討すべきだと考えています。

学童自然クラブの建て替えを

町長―未設置箇所を優先



松本 典子議員

ではなくて恒久的な建物を建てますと言っています。

そして2年前、第1回の移転の話し合いが学童クラブでなされ、行政からは課長が2人、学童保育役員3人、計5人で話し合いが行われました。

その際、場所を移転し、恒久的な建物を建てたいという考えがありますということを示されました。その後、移転先に少

し問題点がある話を聞きました。それから2年以上過ぎましたが、あれきり自然クラブに対しての話し合いは全くあっていない。どうなっているのか。

町長 当時、猪倉にあったが、どうしても緊急的な避難措置として今の位置に建設せざるを得ませんでした。

現在は財政の厳しい中で2か所の未設置箇所を優先的、積極的に取り組んでいます。それが終わ

り次第現有施設の実態を見極めながら、取り組むことになると思います。皆さんのご意見を聞いてやっていきます。



鞍手学童保育自然クラブ

一般競争入札を導入し、最低制限価格の廃止を

町長―理想ではあるが実施は困難



香原 暉議員

質問 資格審査を厳しくすることで、工事の施工は確保できる。入札経費

についても、ハイテクを駆使してやれば節約は可能。これから合併するとい

う時に足腰を強くしておく必要がある。その意味でも参入の幅をもう少し広げておく方が結果的に町内業者の育成につながるのでは。

質問 予算を節約し、税金を生かして使うために、一般競争入札制度を導入し、最低制限価格を廃止する考えはないか。

町長 理想はわかるが、県や周辺市町村が実施している指名競争入札又は、随意契約が現実に合わせていると思います。

町長 確かに一般競争入札制度は理想であるが、多数の業者が参入してくるので工事の施工の確実性が失われる、入札経費がかさむ、町内業者の育成ができないなどの難点がある。最低制限価格を廃止することも同様な結果につながりやすい。

景気がよくなり、町もよくなる。
一般競争入札制度を導入できないまでも、指名の幅を広げることはできるのではないかと。合併と地方分権を前にした今こそ改革が必要だと思うが。

町長 最低制限価格は予定価格の3分の2まで下げることが今でもできます。

しかし、撤廃してしまえば資本力の強い業者がどんどん落としていき、町内業者は生き残れない。将来、法の改正を含めて改善策が出てくれば、その時は対応しなければならぬと思います。



公共工事